

## インプリ科の思い出

「春の七草」 大阪狭山市立東小学校

シ 6 松田秀雄

「七草なずな 唐土の鳥が……」 遠い昔、祖母のうたう声を聞いたのを思い出します。

年末に、2年生担任の先生から「七草かゆ」について児童達に話をして欲しいとの要望がありました。三学期始業日の平成14年(2002年)1月8日に下見訪問、すでに教室には保護者が持ってきた七草のセットが置いてありました。私達はそのセットの中を説明するのではなく、校内の自然観察をしながら「春の七草」を見つけだす事を提案しました。

平成14年1月10日(本番)、2年生3クラス100名、松原・藤本・松田の3人で校庭を自然観察。樹木や植物を観察しながら、「春の七草」をさがしました。ナズナ、ハコベラ、ゴギョウと学校農園のスズナ、スズシロを見つける事が出来ました。その後、全員の前でお正月と春の七草の話をしました。特に、藤本さんは俎板と包丁を持参して、七草の歌を歌いながらトントンと七草を刻んで、古くからのしきたりを教えました。

児童の皆さんに、楽しい自然が身近にあるのをはだで感じて、豊かな感性をみがいてもらう事を願った授業でした。



### インプリ科の歌、誕生秘話

シ 6 若尾隆一

インプリ科に在籍してから20年経過、その間に小学生と一緒に歌い合った3曲に焦点を当てて、振り返ってみます。

#### 【生きものと友だちに】

10数年前大阪市内の都心部にある小学校で、出前教室が終わりかけた頃、曲名は忘れましたが小学生全員で感謝を込めて歌唱してくれました。その折私の横でインプリ科先輩長井成美氏が“小学生と一緒にみんなで歌える歌があればね〜”とささやかれました。

これを聞いて小学生なら誰でも知っている曲の、歌詞を変える替え歌にする方向で思いついたのが「手のひらを太陽に」でした。曲名は「生きものと友だちに」として、身近な動物と植物をあしらひ、小学生とインタープリターとが出会い、感動を歌え合おうと、約1か月後に長井先輩に見てもらいました。“さすが若尾さん、こんなに早くできるなんて素敵!”とほめていただいたのを覚えています。

生きものを友だちとする中で、特に小学生にも覚えて欲しいと願ったことは、手のひらの代りに葉っぱを太陽に向けて葉脈を透かして見ること、至る所で自然や生きものに出会えること、見て聞いて触れ合う感性の世界に自ずと入れることでした。